

企業の社会的責任と安全衛生活動 (2)

1. 組織としてCSRを实践 - CSRと安全衛生・産業保健 -

組織として社会的責任や各種自己点検、監査の要求事項を満たすには、どうすればいいでしょうか。それにはスタッフ部門が漏れなく要求事項に対する仕組み(プロセスのシステム)を構築し、ライン部門が仕組みに基づいて日常のオペレーションを遵守することがまず第一であり、そのエビデンスとしてデータや記録を保存することが大事です。すなわち組織としての取り組みの仕組みがなければなりません。また、組織を構成するスタッフが組織やプログラムに何が欠けているか見極め、何をするか明確にすることが必要です。プログラムや仕組みがうまく機能しているか見るためには、適用基準、実施責任者、モニター方法、管理項目、管理指標等を構築しておくことが望まれます。

安全、健康、快適な職場を確保する安全衛生管理、人間工学管理、健康管理のプログラムの一例を示します。

- ① 現場での災害、疾病防止のために、設備と作業の基準たとえば安全衛生・健康管理マニュアル/機械・設備安全技術基準/建物設計ガイドライン等を作成し、次に安全設計、安全作業を確実にするための基準の内容の教育を実施、さらに基準どおり実施されているかチェックする体制が効果的と見られます。それでもまだ設備等の危害箇所と作業者の接触があるリスクが存在する場合がありますので、リスクアセスメントの実施が不可欠となります。この場合、災害・危険に対する感受性が乏しいと、同じもの、同じ状況を見ていても何がリスクか抽出されないので専門家のアドバイスを得ることも必要です。
- ② 働く人の快適性、快適な作業環境を確保するために人間工学の実践が望まれます。
- ③ 全体を対象とした対策のほかに一人一人の健康状態を考慮して健康増進と予防活動も必要であり、意識と生活習慣の改善、ヘルスプロモーション、メンタルヘルスなどのきめ細かな予防的対応の実施が望まれます。

組織として安全衛生・産業保健のあるべき姿は、別の観点からは、次の項目が業務内容として網羅され実践されていることではないでしょうか。透明な業務プロセス、情報公開・CSRレポート、スタッフ/ラインの法令遵守、スタッフのプロフェッショナル・継続的専門的教育、ポリシー/安全衛生基準、最新技術を網羅した(state of the arts)世界同一基準、子会社・関連会社への同一基準適用、協力会社への展開など。

2. 安全衛生担当者に求められる社会的責任とは

(1) プロフェッショナルの能力発揮

企業倫理は企業が社会的責任を果たすために必要とされるものであるならば、そこで働く一人ひとりの技術者倫理は、プロフェッショナルとして本業を全うすることであり、それが何よりも社会的責任であり社会への貢献ということになります。

プロフェッショナルとして本業を全うすることとはどんな事でしょうか。安全衛生産業保健に携わる者として、常に能力向上が求められることも一つのプロフェッショナルの条

件です。安全衛生、産業保健スタッフとして、プロとして、使命感の醸成や、業務知識のアップデート、新規問題解決能力や手法の取得など多くの項目を学ぶ必要があります。今企業を取り巻く環境では、多くの安全衛生の課題が生じており、プロフェッショナルとしては、これらを解決し、企業の生産性と社員の満足や安全と健康の向上、快適な職場環境と労働を確立するための貢献をすることを目指すことです。

(2) 安全衛生管理体制の確立

安全衛生管理体制を確立するためには、事業者が労働安全衛生の基本方針を定める、管理者、作業者は労働安全衛生事項を業務の一部として実践、作業員・職場のリーダー・安全衛生担当者の役割の明確化、安全衛生管理計画の作成、責任と権限の明確化、作業手順書・安全衛生基準書等の作成、問題点の事前発掘と改善対策の実施、ヒヤリ・ハット、KYT、リスクアセスメントの実施、現場とスタッフとの意見交換会などを仕組みとして行うよう構築することが望まれる。

(3) 安全衛生・産業衛生技術者・産業保健スタッフに対するCSR

CSRはすなわちその企業を構成する社員の果たすべき社会に対する責任と同義であります。ひとり一人の安全衛生担当者の社会的責任の実践が、企業を、社会をよりよく変えていく原動力となっていくことが期待されます。CSRの一部として人権の尊重が企業への期待としてあげられています。人権よりもはるかに重要な人命に関わる内容を主たる業務とする安全衛生担当者は、声を大にして労働災害、疾病の防止を訴え、小さいことから改善の提案をしていくことが望めます。そのためには信頼される成果物を出すこと、災害、疾病を防止するプログラムを開発・実施し、必要に応じて個別アドバイスをすること、信頼をベースに勇気と熱意を持って着実に一つ一つ実施していくこと、それにはプロフェッショナルとしての知識と考えを深め、業務に精通して自信を持って判断すること、不明、自信のないものは、外部の専門家に聞く、外部の講習会、会員などに参加、ネットワーク、相談先をピックアップしておくことなどが日常業務として必要です。我々の取り扱う情報、データは人の安全・健康に影響するものであり特に正確性、客観性、信頼性が要求されます。率先した法、基準の遵守はもとより、従業員の声の反映も必要であり、さらにマニュアル・データ類の管理、測定機器や医薬品・化学物質が常に管理された状態であることを確認し、信頼するに足る情報発信に心がけることが望めます。

3. おわりに ー消極的コンプライアンスから積極的アカウンタビリティの発揮へー

企業の社会に対する責任として、コンプライアンスだけでは消極的な社会的責任の遂行にはほかなりません。これも困難で重要なことには違いありませんが、さらにどのように誠実に業務を遂行しているかを機会あるごとに日常業務等を第三者に示し、理解を進めることが必要となってきます。積極的に説明責任を発揮して企業は、そして安全衛生部門は、さらに安全衛生スタッフは何を實踐しているかを利害関係者に開示することにより、社会的信用の向上、安全衛生の関心の増大、災害予防意識の持続に繋がると考えます。

一般社団法人日本労働安全衛生コンサルタント会東京支部